

ること。眼の刺激が続く場合、医師の診察/手当てを受けること。
 飲み込んだ場合、気分が悪い時は医師に連絡すること。口をすすぐこと。

火災の場合：消火するために、二酸化炭素、粉末消火剤（水素化炭酸塩を除く）、フォームを使用すること。

[保管]

保存は室温かつ湿度 60 %以下で行い、瓶は密閉した状態において酸・アルカリの影響を受けないようにする。

[廃棄]

関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。

都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。

上記で記載が無い危険有害性は分類対象外または分類できない。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 単一製品
化学名又は一般名	: よう素酸カリウム
化学特性	: KIO_3
分子量	: 214.00
CAS 番号	: 7758-05-6
含有量	: 99.9%以上
官報公示整理番号(化審法)	: 1-440
官報公示整理番号(安衛法)	: 公表

4. 応急措置

吸入した場合	: 新鮮な空気のある場所に移動させ鼻をかみ、うがいをさせる。医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合	: 直ちに汚染された衣服やくつを脱がせ、付着部を多量の水及び石鹼で洗い流す。
眼に入った場合	: 数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを装着していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合、医師の診察/手当てを受けること。
飲み込んだ場合	: 口をすすぐこと。気分が悪い時は医師に連絡すること。
応急処置をする者の保護	: 個人用保護具を着用すること。

5. 火災時の措置

消火剤	: 大量の水（本製品は可燃物の燃焼を助長する）砂、泡消火剤、粉末消火剤（水素化炭酸塩を除く）。
火災時の特有危険有害性	: 火災時に刺激性もしくは有毒なヒューム（またはガス）が発生することがある。
特有の消火方法	: 火元の燃焼源を断ち、消火剤を用いて消火する。移動可能な容器

消火を行う者の保護 : は速やかに安全な場所に移す。移動不可能な場合には周辺を水噴霧で冷却する。
: 消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。防火服、耐熱服、防護衣、空気呼吸器、循環式酸素呼吸器、ゴム手袋、ゴム長靴等の保護具を使用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項 : 付近の着火源となるものを速やかに取り除く。着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。

保護具及び緊急時措置 : 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入したりしないようにする。

環境に対する注意事項 : 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。

回収、中和 : 漏出した製品は、空容器に回収し、そのあとを多量の水を用いて洗い流す。

二次災害の防止策 : 漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。風上から作業して、風下の人を退避させる。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 : 火気注意。
衝撃、高温物、スパークを避け、強酸、有機物及び還元剤との接触を避ける。

局所排気・全体換気 : 屋内作業場における取扱い場所では、局所排気装置を使用する。

安全取扱注意事項 : 容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。
漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに粉塵を発生させない。
使用後は容器を密閉する。
取扱い後は、手顔等をよく洗い、うがいをする。
指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。
吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れたりしないように、適切な保護具を着用する。
取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。

保管

適切な保管条件 : 保存は室温かつ湿度 60 %以下で行い、瓶は密閉した状態において酸・アルカリの影響を受けないようにする。

安全な容器包装材料 : ガラス

※標準物質としての適切な保管条件、使用に関する注意事項については、認証書を参照のこと。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策

粉塵が発生する場合は、発生源を密閉し、局所排気装置を設置する。

取扱い場所の近くに、眼の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置し、その場所を表示する。

保護具

◇呼吸器の保護具：防塵マスク

◇手の保護具：保護手袋

◇眼の保護具：側板付き保護眼鏡

◇皮膚及び身体の保護具：長袖作業衣

衛生対策

産業衛生および安全の基準に基づいて取り扱うこと。

9. 物理的及び化学的性質

・外観	: 粉末
・色	: 白色
・臭い	: 無臭
・pH	: 5.0~8.0 (50 g/L, 25 °C)
・融点	: 560 °C (分解)
・沸点	: データなし
・引火点	: データなし
・爆発範囲	: データなし
・蒸気圧	: データなし
・相対蒸気密度 (空気 = 1)	: データなし
・比重又は嵩比重	: データなし
・溶解度	: 水に可溶 (4.7 g/100 mL, 0 °C)、エタノールに不溶
・n-オクタノール/ 水分配係数 (log Po/w)	: データなし
・自然発火温度	: データなし
・分解温度	: データなし
・燃焼性	: データなし
・密度	: 3.89 g/cm ³

10. 安定性及び反応性

◇安定性

加熱すると分解し、酸素を放出して支燃性を示す。

光により変質するおそれがある。

◇反応性

水溶液は強酸化剤として作用する。還元剤と接触すると反応することがある。

◇危険有害反応性

・データなし

◇避けるべき条件

- 日光、熱、衝撃、可燃物との混合
- ◇混触危険物質
- ・データなし
- ◇危険有害な分解生成物
- ハロゲン化物

11. 有害性情報

急性毒性	経口 マウス LDLo : 531 mg/kg (RTECS) 腹腔 マウス LD50 : 136 mg/kg (RTECS) 経口 イヌ LDLo : 200 mg/kg (RTECS)
特定標的臓器／全身毒性 (反復暴露)	マウスに 100 日間飲水投与した試験において 0.0506 mg/kg/Day の投与量 (区分 1 のガイダンス値内) 甲状腺重量、濾胞細胞および濾胞細胞腔への影響が認められたとの報告があるが、使用動物数、影響の程度等の記載がなく詳細不明である。また、他の投与経路による報告もなく分類できない。

12. 環境影響情報

- 生態毒性
- ・データなし
- 分解性・濃縮性
- ・データなし
- 生体蓄積性
- ・データなし
- 土壌中への移動性
- ・データなし
- オゾン層への有害性
- ・データなし

13. 廃棄上の注意

- ・関連法規および地方自治体の条例に従って廃棄すること。
- ・空容器を廃棄する時は、内容物を完全に除去してから処分する。

14. 輸送上の注意

国連番号	: 1479
国連分類	: クラス 5.1 (酸化性物質)
品名	: Oxidizing solid, n.o.s
容器等級	: PG II
ICAO/IATA	: 該当なし
海洋汚染物質	: 該当なし
注意事項	: 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。

転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

15. 適用法令

◇消防法

- ・危険物第1類 よう素酸塩類 危険等級 I

◇毒物及び劇物取締法

- ・非該当

◇労働安全衛生法

- ・令別表第一の3 危険物（酸化性のもの）

◇船舶安全法（危規則）

- ・その他の酸化性物質

◇航空法

- ・酸化性物質

◇化学物質管理促進法（PRTR 法）

- ・非該当
-

16. その他の情報

その他

記載内容は現時点で入手できる資料、データに基づいて作成しており、全ての情報を網羅しているわけではありません。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合は、用途、用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。

記載内容は情報提供を目的としており、取扱い上のいかなる保証をなすものではありません。
